

情報誌と連携した消防団応援事業業務委託 公募型プロポーザル実施要領

1 委託業務概要

- (1) 委託業務名
情報誌と連携した消防団応援事業業務
- (2) 委託業務の目的
減少する消防団員確保のため、消防団の存在意義や活躍等を広く発信し、社会全体で消防団を応援する雰囲気を作ることにより、消防団員の士気の向上及び消防団活動に対する社会全体の理解促進を図ることを目的とする。
- (3) 委託業務の内容
別添、「情報誌と連携した消防団応援事業業務委託仕様書」(以下「仕様書」という。)のとおり。
- (4) 委託契約期間
契約締結の日から令和5(2023)年2月21日(火)まで
- (5) 委託契約金額の上限
1,996,500円(消費税及び地方消費税を含む。)

2 プロポーザル参加資格に関する要件

企画提案に参加する者は、次に掲げる要件をすべて満たしていること。

- (1) 地方自治法施行令(昭和22年政令第16号)第167条の4に規定する者に該当しない者であること。
- (2) 栃木県競争入札参加者資格等(平成8年栃木県告示第105号)に基づき、入札参加資格を有する者であること。
- (3) 参加表明書及び企画提案書の受付期間において、栃木県競争入札参加資格者指名停止等措置要領(平成22年3月12日付け会計第129号)に基づく指名停止期間中でない者。
- (4) 民事再生法(平成11年法律第225号)第21条第1項若しくは第2項の規定に基づく再生手続開始の申立てがされている者(同法第33条第1項の規定に基づく再生手続開始の決定を受けた者を除く。)又は会社更生法(平成14年法律第154号)第17条第1項若しくは第2項の規定に基づく更生手続開始の申立てがされている者(同法第41条第1項の規定に基づく更生手続開始の決定を受けた者を除く。)でないこと。
- (5) 栃木県暴力団排除条例(平成22年栃木県条例第30号)第2条第1号又は同条第4号の規定に該当しない者であること。
- (6) 本社又は営業所等が栃木県内にあり、県税を滞納していないこと。
- (7) 過去5年以内にフリーペーパー(無料情報誌)の発行実績があること。

3 公募型プロポーザル実施の手続

(1) 予定される実施スケジュール

- ア 実施要領等の公表 令和4(2022)年8月8日(月)
- イ 実施内容等に関する質問書の提出期限 令和4(2022)年8月12日(金) 15時必着
- ウ 質問に対する回答 令和4(2022)年8月17日(水) 予定
- エ 参加表明書の提出期限 令和4(2022)年8月22日(月) 16時必着
- オ 企画提案書の提出期限 令和4(2022)年9月9日(金) 16時必着
- カ 審査結果の通知・公表 令和4(2022)年9月中旬頃

(2) 実施内容等に関する質問

プロポーザルに参加するに当たり、質問事項がある場合は、簡易なものを除き、質問書(別紙様式1)を電子メール又はFAXにより提出すること。

【提出先】

〒320-8501
栃木県宇都宮市塙田1-1-20 栃木県庁本館8階
栃木県県民生活部消防防災課地域防災担当
電話：028-623-2127 FAX：028-623-2146
電子メール：syoubou@pref.tochigi.lg.jp

(3) 質問に対する回答

質問に対する回答は、質問者に回答するとともに、競争上の地位その他正当な利害を害するおそれのあるものを除き、栃木県ホームページ上で公開することとする。

(4) 参加表明書の提出

本プロポーザルへの参加を希望する者は、参加表明書(別紙様式2-1)に関係書類を添付して持参又は書留郵送(提出期限内必着)により令和4(2022)年8月22日(月)16時まで(2)に掲げる場所へ提出すること。

なお、参加表明書の提出後に参加を辞退する場合には、令和4(2022)年9月9日(金)までに、辞退届(様式任意)を提出すること。

(5) 企画提案書の作成

企画提案書は、仕様書及び審査基準を熟読の上、次のとおり作成すること。

ア 企画提案書の様式は任意とし、枚数制限は設けないが、以下の内容を具体的に記載して作成すること。

[記載内容]

- (ア) 企画提案内容
- (イ) 実施計画及び全体のスケジュール
- (ウ) 業務実施体制
- (エ) 見積額(総額、内訳、諸経費、消費税を可能な限り詳細に明記)
- (オ) 過去5年間におけるフリーペーパー(無料情報誌)の発行実績

- イ 提案書にはページ数及び表紙を作成して付すこと。
- ウ 企画提案書の用紙は、原則としてA4判用紙を使用することとし、A3判用紙を使用する場合には、A4判サイズに折り込むこと。
- エ 企画提案書は1者1提案のみとする。
- オ 企画提案書の提出部数は、7部（正本1部、副本6部）とする。なお、審査の公正を期すため、副本には参加者名を記入しないこと。
- カ 提出の際に、栃木県知事宛ての見積書を正本1部（代表者印を押印）提出すること。なお、見積書は、企画提案書の見積額と整合させること。

(6) 企画提案書の提出

- ア 提出書類
 - (ア) 企画提案書：7部（正本1部、副本6部）
 - (イ) 見積書：1部（正本1部）
- イ 提出期限
令和4(2022)年9月9日（金）16時必着
- ウ 提出先
本要領3（2）に掲げる場所
- エ 提出方法
持参又は郵送（書留郵便に限る。）

(7) 企画提案書等提出書類の取扱い

- ア 提出期限後において、提出書類の変更、差替、再提出又は撤回は認めない。
- イ 提出期限後において提出書類は理由を問わず返却しない。
- ウ 提出書類は審査に必要な範囲において複製を作成することがある。
- エ 企画提案書は、栃木県情報公開条例（平成11年栃木県条例第32号）に基づく情報公開請求の対象となる。

4 契約候補者の選定

参加表明書が参加要件に該当する旨を確認した後、次により審査を行う。

- (1) 審査基準
別紙、「審査基準」のとおり
- (2) 審査方法
企画提案書の提案者によるプレゼンテーションは実施せず、栃木県が設置するプロポーザル審査委員会により、提出された企画提案書等を審査し契約候補者を選定する。
- (3) 候補者の選定方法
 - ア 失格者を除いた者のうち、(2)による評価の合計点の平均点が最も高い者を契約の相手方の候補として選定する。

イ 最高点の者が複数の場合は、価格提案書の金額が最も安価な者を契約の相手方の候補者として選定する。なお、金額も同額の場合は、当該者は、当初提案の金額の範囲内で価格提案書を再作成し、再提出された価格提案書の金額が最も安価な者を契約の相手方の候補者として選定する。ただし、審査結果いかんによっては、いずれの参加者も契約候補者に選定しないことがある。

ウ 審査委員会は非公開とし、審査内容に係る質問や異議は一切受け付けない。

(4) 審査結果の通知・公表

審査結果については、審査後、速やかに提案者宛て通知するとともに、契約候補者の名称等を栃木県ホームページに掲載する。なお、審査結果に対する異議申立ては受け付けない。

5 契約に関する事項

- (1) 企画が採用された契約候補者については、栃木県と協議の上、栃木県財務規則等の関係法令の規定に基づき委託契約を締結するものとする。
- (2) 委託業務の実施に際して、企画提案書の内容をそのまま実施することを約束するものではなく、選定後には、契約候補者と企画提案書の内容をもとにして、業務の履行に必要な具体的条件等の協議や調整を行い、随意契約の手続に進むこととする。
- (3) 最優秀提案事業者と契約締結の交渉を行い、その者と契約が成立しない場合は次点の提案事業者と交渉を行うこととする。

6 業務の適正な実施に関する事項

(1) 業務の一括再委託の禁止

受託者は、受託者が行う業務を一括して第三者に委託し、又は請け負わせることができない。ただし、業務を効率的に行う上で必要と思われる業務については、協議の上、業務の一部を委託することができる。

(2) 個人情報の保護

受託者が当該業務を行うに当たって個人情報を取扱う場合には、栃木県個人情報保護条例（平成 13 年栃木県条例第 3 号）、栃木県個人情報保護条例施行規則（平成 13 年栃木県規則第 66 号）に準じて、その取扱いに十分留意し、漏洩、滅失及びき損の防止その他個人情報の保護に努めること。

(3) 守秘義務

受託者は、委託業務の処理に際して知り得た秘密を他に漏らさないこと。委託業務が完了し、契約が解除された後においても同様とする。

7 業務の継続が困難となった場合の措置

栃木県と受託者との契約期間中において、受託者による業務の継続が困難となった

場合の措置は、次のとおりとする。

(1) 受託者の責めに帰すべき事由による場合

受託者の責めに帰すべき事由により業務の継続が困難となった場合には、栃木県は契約の全部又は一部を解除することができ、委託料の全部又は一部を返還させることができるものとする。この場合、栃木県に損害を与えたときは、その損害に相当する額を、受託者が賠償するものとする。

(2) その他の事由による場合

天災その他、栃木県及び受託者双方の責めによらない事由により業務の全部又は一部の継続が困難となった場合、栃木県の承認を得て、当該部分の義務を免れるものとし、栃木県は、当該部分についての委託料の支払を免れるものとする。

8 失格事項

以下の事項に該当する場合は、失格となることがある。

- (1) 提出された書類の記載内容が業務委託仕様書等に示す条件に適合しない場合
- (2) 提出された書類に虚偽の内容が記載されていた場合

9 その他

- (1) 応募の際に要する経費やプロポーザル参加に要する経費等については、参加者の負担とする。
- (2) 提出された書類は返還しない。
- (3) 提案事業者が応募資格を満たさないことが判明した場合や提出書類に虚偽の記載がある場合には、当該提案者は失格となる場合がある。
- (4) 書類等の作成に用いる言語、通貨及び単位は、日本語、日本国通貨、日本標準時及び計量法に定める単位に限る。
- (5) 企画提案書の著作権は参加者に帰属し、委託契約候補者が提出した企画提案書の著作権は、契約締結時点で栃木県に帰属するものとする。
- (6) 企画提案書に著作権など日本国の法令に基づいて保護される第三者の権利の対象となっている内容を含む場合、当該権利の使用に係る調整は参加者が行うとともに、その使用に係る経費を委託料に計上すること。
- (7) 委託業務における制作物の著作権は、栃木県に帰属するものとする。委託契約期間終了後、栃木県が制作物を使用するにあたり制限がある場合には、企画提案書にその旨明記すること。
- (8) 提出書類及び選考の経過は非公開とする。
- (9) 本プロポーザルへの参加により、栃木県から知り得た情報は、他者に漏らしてはならない。